

令和5年度第1回京丹後市総合計画審議会 会議録

- 1 開催日時 令和6年2月22日(木) 午後2時～午後3時40分
- 2 開催場所 京丹後市役所峰山庁舎2階201-203会議室
- 3 出席者 <審議会委員>  
中谷 真憲委員(オンライン)、池田 満委員、中村 俊彦委員、田中 智子委員、  
山崎 高雄委員、藤井 美枝子委員、瀬古 敬委員(オンライン)、小谷 順一  
委員、奥田 幸子委員、上田 美知子委員、谷口 潔委員、堀田 多規子委員、  
藤井 崇史委員、室田 郁枝委員、味田 佳子委員、吉岡 智奈里委員(オンライ  
ン)、阿辻 凛太郎委員、中江 祐之委員、俣野 裕哉委員  
<アドバイザー>  
村上 章アドバイザー  
<説明員>  
同志社大学社会学部准教授 嚮田 竜蔵氏  
<事務局>  
市長公室長 川口 誠彦、市長公室 政策企画課長 松本 晃治、政策企画課 係  
長 北尻 光  
欠席者 上羽 千秋委員、田茂井 勇人委員、廣瀬 正貴委員、岡段 博士委員、小倉 麗  
子委員、森口 茂樹委員、木野瀬 信江委員、西原 肇委員、小林 朝子委員、  
糸井 ゆかり委員、稲岡 克彦アドバイザー  
(以上委員10名、アドバイザー1名)
- 4 次 第  
(1) 開会  
(2) 会長あいさつ  
(3) 議題  
総合計画及び総合戦略の進捗状況について  
若者の暮らしに関するアンケートの結果概要について  
(4) 閉会
- 5 公開又は非公開の別 公開
- 6 傍聴人 0人
- 7 要 旨 下記のとおり

事務局： 定刻となりましたので、ただ今から令和5年度第1回京丹後市総合計画審議会を開会いたします。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、当審議会の事務局を担当しております市長公室の川口と申します。どうぞよろしくお願い致します。

#### ■委員紹介

事務局： 本日ご出席いただいております委員の皆様のご紹介につきましては、お手元に配布しております席次表にて代えさせていただきたいと存じます。また、オンラインにて、京都産業大学の中谷副会長、北丹医師会の瀬古委員、京丹後市福祉サービス事業者協議会の吉岡委員に参加いただいております。どうぞよろしくお願い致します。なお、本日は10名の委員から欠席の連絡を受けておりますが、「京丹後市総合計画審議会条例第6条第3項」の規定により、委員の過半数の出席がありますので、本日の会議が成立していることをご報告させていただきます。また、本日、審議会のアドバイザーとして京都府丹後広域振興局地域連携・振興部長の村上様、説明員として、同社大学社会学部の轡田准教授にもご出席いただいております。どうぞよろしくお願い致します。

#### ■会長あいさつ

事務局： それでは、開会にあたりまして、会長からご挨拶をいただきます。よろしくお願い致します。

会長： 皆さん改めまして、会長を引き受けさせていただいております味田です。本日は年度末の大変お忙しい中、ご出席をいただき、ありがとうございます。この第2次総合計画、もう来年度が最後ということで今日はそのまとめと次の計画に向けてご意見をいただきたいと思います。皆さんに積極的にご発言いただけますよう、私の務めは、そのあたりだと思っておりますので、ぜひ、ご発言の方よろしくお願い致します。

#### ■配布資料の確認

事務局： ありがとうございます。次に資料の確認をさせていただきます。委員の皆様には、本日の資料を事前に送付させていただき、持参いただくようお願いをしておりましたが、お持ちでない方がいらっしゃいましたら事務局へお声かけください。

全ての資料についてこれから順番に確認をさせていただきます。ない資料がある方は、挙手にて事務局へお知らせください。

(配布資料の確認)

それでは、京丹後市総合計画審議会条例第6条第2項の規定により、会議の議長を味田会長にお世話になりたいと存じます。味田会長、よろしく願いいたします。

#### ■会議録確認者の指名

会 長： それでは京丹後市総合計画審議会条例に基づき、これより先は、議長を務めさせていただきます。

まず、会議録確認者の指名をさせていただきます。「京丹後市審議会等の会議の公開に関する条例施行規則第5条第2項」の規定により、「会議録の内容について、会長が指定した者の確認を得るもの」とされていますので、私から指名させていただきます。

大変お手数ですが、俣野委員にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### ■議題1 総合計画及び総合戦略の進捗状況について

会 長： それでは、さっそくですが議事に入らせていただきます。

両ガッコ1「総合計画及び総合戦略の進捗状況」、両ガッコ2「若者の暮らしに関するアンケートの結果概要」について一括して議題といたします。事務局から説明をお願いします。

事 務 局： （資料1に基づき「総合計画及び総合戦略の進捗状況」について説明）

嚮田准教授： （資料2に基づき「若者の暮らしに関するアンケートの結果概要」について説明）

会 長： ありがとうございます。ただいま、この間の人口の推移や成果指標の状況、そして嚮田先生より若者の暮らしに関わるアンケート調査の結果概要について報告がございました。来年度には、新たな総合計画の策定が予定されておりますので、そのあたりを見据えて、現状についてのご意見をいただくというのが、本日の会議の趣旨でございますので、委員の皆様が、現在の市の取り組み状況をどのように捉えておられるのか。また、人口減少に歯止めをかけるために、こういった取り組みを進めていく必要があると感じておられるのか。そのような視点で、ご意見やご質問をいただきたいと思っております。ぜひ積極的にご発言いただきたいと思っておりますので、どなたからでも結構です。よろしくお願い申し上げます。

委 員： 私は、昨年この委員会に参加させていただき、実は民間の組織でもこういった計画の仕事をするところがありましたので、その中で3点ほど意見いたします。1つ目はものすごく簡単なことですが、いろんな計画がある中で、西暦や和暦がよく出てきており、可能であれば西暦や和暦の表記を次回の計画より統一

して欲しいということです。

2点目は、参考資料1に記載の計画の達成度合いはどちらかという行政だけで取り組む資料になっており、その実績しか書かれていないので、実績をもとに目標をどう見直すのか、達成できたらどうするのか、やはり目標に対しては、やった結果について評価しないといけないと思っています。基本計画の下に実施計画というのがあり、本日は配布されていないということですが、この実施計画というのは、行政が主体となって進めていき、基本計画を達成しようということになっていると思いますが、その実施計画が、行政の中だけで評価されて、計画がどのように進んでいるのか分からない状況ですので、実施計画がしっかり進んでいるかどうかという評価を委員にわかるようにしていただきたいです。難しいことだとは思いますが、総合計画というのは、行政評価をする目的もありますので、行政がどれだけのことを行っているのか、そういったことが分かるようにしていただければと思います。

3点目に、基本計画と実施計画の因果関係がはっきりしてないような項目も中にはあり、これは一例ですが、久美浜湾のCOD濃度や、全窒素とかいろいろありますが、最近では、それを進めても結果に繋がらないというようなことがわかる研究もあります。そのような場合は、計画の途中でも修正が加えられるような仕組みになっていないため、次回の計画では、評価を計画に反映できるようにしていただきたい、そしてその反映される様子を審議会に提示していただければと思います。

会 長： 例えば実施計画を全部達成すれば基本構想の達成になるのかといった趣旨のご指摘だったと思いますので、バックキャストिंगといいますか、本当に必要なことを計画に落とし込んでやっていき、その様子が審議会にわかるようにしていただくという意見は、大変重要なお指摘だと思います。

事務局： 委員には昨年からお指摘いただいていたのですが、おっしゃる通りだなというふうには思っております。特に評価の方法ですね。PDCAで実際にどうまわしていくのか、そこに審議会の意見をどう反映していくのか、この計画ではわからない状態になっていますので、今後財源も限られてくる中で、一定重点化をしていく必要があるということで、次の計画では、評価の部分をしっかり持つておくことが重要だと思っています。

委員： 全体的に話を伺う中で、例えばふるさと納税の伸びや観光収入、お客さんの伸びなど、また移住者の方が増えてきていることなどを見ると、京丹後市に対する外側からの評価が高まってきているという印象を受けています。また私自身がいろいろな地方創生の活動に携わっている中でも、最近の京丹後は、今言った側面からはすごく元気を感じています。

他方で、転出が超過している、特に若者の転出が非常に多く、回復率も伸びておらず、またアンケートなどを見ても、ポジティブになっているのはUターン、移住者等であり、市内にずっと住んでいる方の自己評価が低いように感じました。外側からの評価が高まっている一方、市内にずっといる人の自己評価が低いということ

次の世代に先送りさせないためにどういう政策をとるのか考えることが必要だと思います。やはり次の世代になってくるといことは、特に子どもとか若者に対して、将来的に市内でこういう働き方があり、一旦外に出てもそこで得たスキルを生かして帰って来てこんな仕事ができる道を開いているといった例をたくさん見せることはすごく必要だと思います。そのため、今の時代は働き方の多様性的なものを、実際に楽しくやってる方の例なども見せながら子どもたちに伝えていくという努力が必要ではないかと思います。

会長： 冒頭の説明で、人口のことについて説明がありましたが、その人口の目標想定と現実の数字が離れており、この計画がその他の計画の基本となり影響を与えることになるかと思いますが、人口の予想と現実の乖離があることについては問題ないのでしょうか。確かに目標なので理想の数字を目指さなければいけないのですが、より実態に合った数字を出して計画に反映させていくことも大事だと思います。これは事務局にというよりも、皆さんの意見を伺いたいと思います

委員： この会議で私も1度申し上げましたが、悔しいことですが、外側からの評価が高まってきており、移住者が増えてきたとしてもよほど爆発的なことが起きない限り、人口減がやはりかなり続くと思います。その際に、数字を過大につくりすぎてしまうと実際との乖離はできてしまいます。そのため、国の人口統計の予測に関しても幾つかのラインをとり、危ない方のシナリオまで考えその幅の中で考えると、もう少し実態に近い形で進められるのではないかと思います。

委員： 人口を増やしていくためには、若い人、子どもさんがいる世帯、これから子どもを産んでいく人たちをターゲットにしないと増えることはないと思います。そのために、本当に住みたい、子どもにやさしい、若い人たちにやさしいと思える施策が必要であり、子育てや子どもを産むことについてネガティブにならないように遊び場や補助制度など具体的なことをしていかないと人口が増えるというのは難しいと思います。

委員： 商工会では去年、一昨年から将来ビジョン検討会というものを立ち上げ、人口減少にならないように検討を進めており、まとめている段階です。会員事業所が2,270弱ほどこの地域にありますが、どんどん減ってきております。この状況を踏まえ2050年にどうしていくのか、検討を進めています。最悪の場合と理想の場合の視点はもちろんなんですが、やはり自分たちの思いで、こうしていきたいという目標は持ってやらないと、どんどん減少の方に向かっていくと考えていて、色々な施策に頼っていくばかりではなく、自分たちは何ができるかといった視点で話をまとめています。この総合計画は次年度の見直しということですが、ぜひとも商工会の将来ビジョン検討会で出てくるような数字と、市の方の取りまとめをする際に協議させていただき、この市の方で持っているような計画とリンクしていく必要があるという議論を商工会でしているのでぜひとも入れてほしいと思います。

それから先ほどのアンケートの意見で、響田先生の方から傾向の話をお聞き中

でありました地域に関する現状評価は著しい低く厳しいが、その一方で生活満足度は低くないというのはどういう現象なのでしょう。ここで生まれ育った方のこの地域へのネガティブな感情と、この地域に可能性や魅力を感じて移住された方の認識の差が大きいというのはずっと感じており、何が原因でそういうふうなことが起きるのでしょうか。また、ここで生まれ育った人たちが、もう少しポジティブにいろんなことが考えることができれば、いろんなことが変わってくると思います。またこれは教育の話だと思うので、まずそこから始めないといけないのではと思います。

轡田先生： 今おっしゃられたデータは、資料の中の1-5の地域社会についての現状評価の部分です。これを見ると、評価が低いということが分かりますが、その中でも、Uターンと転入者の間の差も大きいです。転入者の方が、できることが多いとか、現状に満足している、そういった評価が高くなっています。分析したところ転入者の場合は、京丹後の中だけで生活が完結しておらず、都市部にも親しい友達がいるなど、生活圏が広いことが理由に挙げられます。地域満足度っていうものは、すごく狭い範囲の地域の利便性っていうところで評価されていて、例えばスーパーが少ないとか、大型のイオンモールが近くにないなど、イオンモールからの距離にかなり相関するような分析もあるほど全国的な傾向と言えるので、もうここは仕方のないことですが、客観的に見た利便性という点では、都市部に劣るとしても、それぞれに個々人は、ライフスタイルとか働き方を工夫し、あるいは家族との暮らしなど、工夫しながら生活満足度を高めています。狭い地域から出られない人と、場合によっては広い地域と繋がることのできる人との差が出ていると考えられます。それだけではないですが、大きい要因としては、その点が挙げられます。

委員： 今、その若者が結構出ていくというようなお話をしておられましたが、現在、小学校や中学校などで丹後学ということで、子どもたちに丹後の良さを伝える学習を行っており、そういった部分に力を入れていただき、地域を巻き込みながら、いかに若い世代に対し丹後の良さを伝え、地域に将来帰ってきてもらえるか取り組んでいかなければいけないのではと思います。

会長： 自分たちに何ができるのかといった視点で考えるべきだというようなことで、皆さんから子育てのことや丹後学のことなどご意見をいただきました。将来ビジョン検討会との関わりについて事務局から何かありますでしょうか。

事務局： 商工会をはじめ、青年会議所でも将来ビジョンの検討されてるようになっておりますので、ぜひ次期計画総合計画には綿密に連携をとらせていただき、様々な団体が共に一つの方向に向かっていけるような計画になればと思いますので、ぜひ参考にさせていただければと思います。

委員： 私たちの団体では、いろんな女性団体が集まり男女平等参画をテーマによく話や勉強をしています。地域に帰れば出番もなく、なかなか進まない現状を感じています。この計画の中で、男女共同参画が書かれている部分を見ますと、市

の職員の管理職に女性が登用されているものが 1 つのデータになっておりますが、女性と協力しながら参画の場を増やしていただき、もっと住みやすい、もっと楽しい京丹後市になればと思います。そうすることで子どもや人口が増え、地域の中で優しく迎えることや子育てを応援する地域になれるのではと思います。行政だけでなく、地域や個人も一緒になり地域を盛り上げていくような場に女性が参画できるようなことをぜひ計画に入れていただければと思います。

委員： 若者の移住で大切なものは、仕事と住むところ、あと人間関係だと考えておりました、自分自身も移住を検討しており、京丹後市の空き家バンク等を見させていただきますが、やはり仕事の集中する峰山・大宮地区の空き家バンクの件数が少なく、丹後町、久美浜町、網野町に空き家バンクの登録が集中していたりするなど、京丹後市は面積が広いこともあり移住に対するハードルが高いと感じています。そのため、仕事と住むところを合わせた支援や移住促進などがあればいいなと思います。移住促進に関する補助金等もありますが、当てはまらない層や独り身でこちらに移住して来て京丹後市で人間関係やパートナー、友達関係をつくり、ここを拠点として生活を始めるというのがしづらい環境にあるように思います。今後はそういった面でサポートして移住者を増やしていければいいのではと思います。

事務局： 先ほど委員からあった通り、女性の参画、活躍という点で、私も地域公民館の役をやっています、昨日会議に出席していたのですが、役をしているのは全員男性です。地域公民館の事業としては文化やスポーツもあり、割と女性も入りやすいように感じています。来年度私が公民館主事になる段階で女性の視点を入れたいということで、新たに女性が数名入っていただけるような動きがあります。そういったところから女性も地域づくりに参画いただくことができたらいいなと考えております。

また指摘いただいたように、移住された方が人間関係が構築できず、短期間で離職してしまうような課題もあるため、そこに対するサポート体制などを検討していく必要があると思います。

会長： 移住に関して、資料 1 の 20 ページに移住者の推移と記載がありますが、この移住者の数字はどういう数字なのでしょう。またその数字はどういった方が含まれているのでしょうか。

事務局： 数字としましては、移住定住担当所管課である政策企画課が把握した数字となっています。一般的な転勤で訪れる方などはカウントしておらず、市の補助制度を活用して移住された U ターンの方や I ターンの方も含む人数となっております。

委員： 社会福祉協議会では、第 4 期地域福祉計画と地域福祉活動計画を策定しています。その中で、先ほど人口減少という話が出ていましたが、我々は誰一人置き去りにしない、一人一人の皆さんが安心して元気で過ごせる、そのような取り組みを行っている中で、昨年 11 月 19 日に京丹後市福祉大会を開催しました。

その1カ月前に京都府の福祉大会での定義もそうでしたが、地域で活動する関係団体や住民が一緒になって連携して協働・協力していくこと、これが地域の皆さんを守っていることだと定義をさせていただきました。そういうことで、21ページの新たな地域コミュニティについて21のモデル地域ということでご報告いただきましたが、令和6年度は33を計画しております。

またお知らせですが、2月24日に新たな地域コミュニティ推進大会の開催を予定しておりますのでお時間のある方はぜひお越しください。

委員： 地区役員で区に女性が出て、とてもやりにくかったという話も聞いております。ただ、移住者の方は本当に丹後の魅力を地元の人よりも知っており、そういう意味で、Uターンなどで女性が京丹後の出身で結婚して男性が移住してくる形や二拠点生活をする方が増えてくるのではないかと思います。個人的には子育てする人への支援を特にやっていただきたいです。今日の広報誌で、子育てに特化したこども部が創設されたということで、市がこうして動いているのだと感じていました。子育てがしやすい、自然が豊かでなおかつものづくりのクリエイティブなまちでもあるので、そういった部分をきっちりと繋いで伝えていき、もっともっと地元を誇りを持てるようにアピールをしていく必要があります。そういった部分でも女性活躍の場が広がっていくことがより重要になってくると思います。

委員： 先ほどの人口ビジョンの話に関連して、グラフの人口推移は理想的な政策効果の発現があった場合を記載されていますが、5年前10年前も同じように推計し、実際に9ページは同じように推計して、結果的にその推計より下回ったということから考えますと、この政策効果をどう見るかによって変わってくるので、この政策効果を実現性のあるような根拠にするということが、皆さんに納得してもらうためには一番大切だと思います。ただ今回は夢物語の計画でそれはそれでいいと思いますが、より幅を持たせた方が良いのではと思います。しかし、やはり目標としては持たないといけないため、両立させようと思うとやはり2つの曲線があればいいのではと思います。根拠を大事にして、その2つの曲線をつくるようにお願いしたいです。

会長： アドバイザーの方からもご意見いただけますか。

アドバイザー： 皆さんの議論を聞かせていただく中で、各団体と京丹後市が目標を共有することは素晴らしいと感じました。京都府の方でもそういったことができるのですが、なかなかそういったことが実現できているところはあまりないので、ぜひ次回の総合計画では、そういったところの深掘りできるといいなと思いました。特にその中で、気にしたほうがいいのかなど思っているのは、目標の共有の仕方っていうのは非常に大事だと思います。先ほども目標数字の説明とそれの達成度の話がありましたが、おそらく各目標は全部横並びではなく、主目標もあれば、その目標の下に小さな目標のようなものがあるので、まずはその一番大きな目標というものを皆さんに共有するっていうところからスタートできれ



ば、そこに小さな目標や具体的な取り組みがついてくるとと思います。その取り組みを市がやるのか、それとも商工会がさらに取り組むのか、婦人会の方が参加されるのかそういった話も出てくるかと思しますので、そういった主目標と主な指標といった考え方も、次回の目標の中では検討いただけたらと思います。

また、これからの行政の中で重要なのは、根拠に基づいてその施策を考えていくということが非常に重要だと思います。EBPMも多分民間の方でもやられてると思いますが、このデータがあるのでこの取り組みをしていくということを行っていくことが重要です。なかなか限られた財源と人員の中で、成果を出していこうするのは難しいので、そういった部分に注力をする必要があると思います。そういった意味では、先ほど轡田先生からご説明いただいたアンケート調査分析は、まさしくエビデンスですので、これが全国平均に比べて京丹後市がどうなのかという比較が可能であれば、タイプ別のような分類をしていただけると非常にわかりやすいと思いました。そういった分析を踏まえこういう取り組みが考えられるのではないかといいところまで深掘りができると、本当にエビデンスに基づいた施策の検討ができ、それに基づいてやってみた上で、結果がどうかという先ほどから委員がおっしゃっているような評価のところできちんと検証ができるかのではないかと考えています。そういった部分で深掘りができると本当に他にはないような計画になるのではないかと思います。なかなか難しいと思いますが、ぜひチャレンジしていただければと思います。

会長： ありがとうございます。まだまだご意見あると思いますが、時間の方が来ましたので、審議会を締めさせていただきます。活発に意見交換ができたと思います。では司会進行を事務局の方にお返したいと思います。

事務局： 味田会長、ありがとうございます。皆様本当にたくさん貴重な意見をいただきありがとうございます。現委員さんの任期につきましては3月18日までとなっております、2年任期の満了になります。この間、2年間お世話になった方や、直近で務めていただいた方もいらっしゃいますが、ご協力いただきありがとうございます。令和6年度は、第2次総合計画の見直しを行い、新たに第3次総合計画の策定をすることとしております。どんな計画をつくるのかについては、今日の議論も踏まえたうえで、現在のように大きなボリュームのものをつくるのかということも1つの課題だと考えておりますが、いずれにしても、また次期の委員として、お願いをさせていただく方もいらっしゃると思いますが、その際はぜひご協力をいただければと思いますので、何卒よろしく願いいたします。

それでは以上をもちまして令和5年度第1回の総合計画審議会を終了とさせていただきます。長時間にわたり大変ありがとうございました。